

【AADC-0130 (Breast)】 TC療法 (ドセタキセル (DTX) 点滴 + シクロフォスファミド点滴)

■スケジュール 3週を1サイクル 術後 4コース

※当院で治療に用いているドセタキセルはアルコールを含有していません。

次治療

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
注																							

■副作用情報 (J Clin Oncol. 2009 Mar 10;27(8):1177-83)

悪心 (Grade1:38%、Grade2:13%)、口内炎 (Grade1:23%、Grade2:10%)、
 無気力 (Grade1:43%、Grade2:32%)、浮腫 (Grade1:27%、Grade2:7%)、
 筋肉痛 (Grade1:22%、Grade2:10%)、発熱 (Grade1:14%、Grade2:5%)、感染 (Grade3 : 7%)、
 好中球減少 (Grade4 : 10%)、嘔吐 (Grade1:9%、Grade2:5%、Grade3/4 各 1%未満) 等

■支持療法：抗がん剤治療による有害事象に対応する **基本的な処方** です。

患者さまの常用薬、状態に応じて変更する場合がございますので、ご承知おきください。

点滴 翌日 から 飲むお薬 点滴当日は 相澤病院で点滴 にて制吐剤 とステロイド剤を 投与しています	デカドロン錠(4) 1日2回 朝と昼 食後 1回1錠	浮腫み、吐き気、皮膚障害予防 として処方されています 点滴翌日から 3日間 飲みます。 昼に飲む理由は、 16時以降に飲むと不眠になる可能性があるからです。
	ファモチジン OD 錠 (20) 1日2回 朝と夕食後 1回1錠	デカドロン錠による胃腸障害を予防するのと 抗がん剤によるムカムカ症状を緩和します。 点滴翌日から 3日間 飲みます。

■服薬指導のポイント

・この治療ではデカドロンは3つの目的で支持療法薬が処方されている。指示日数きちんと服用するように伝える。

・食欲がないときのアドバイスとしては、無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ**可能な範囲**で食べる。揚げ物・煮物・煮魚や焼き魚などは避けることで、嘔気を軽減することもある。料理は冷やしたり、冷まして食べることで、あたたかいものより、においが軽減し食べやすくなることある。

・ドセタキセルの有害事象“浮腫”についてステロイド投与対策はランダム化比較試験により有効性が示されている。浮腫は下肢から発現し3kg以上の体重増加を伴う場合がある。ドセタキセルの投与を中止すると浮腫は徐々に軽快する。利尿剤が処方となる場合もある。足の浮腫の場合は寝るときクッションなど用い足を少し高くして休むと浮腫が和らぐことがあるとされる。

このレジメンは、術後4コースなので浮腫の頻度が高くなる前 (DTX 総投与量 350mg/m²) には達しないが個人差もあるため確認していくことが大事。

浮腫を確認するには、まぶたが重くないか、靴や靴下がきつくないか、体重がいきなり増えてないか など

・脱毛については、髪の毛だけではなく全身の体毛において起きる可能性がある。点滴開始2～3週間後に発現する方が多い。治療が終わると1～2ヶ月で再生がはじまり3～6ヶ月で、ほとんど回復するが、髪質が変化することもある。脱毛が落ち着くまではケア帽子やバンダナを利用し、脱毛の程度をみてカツラを検討する。

・口内炎には、薬の粘膜に対する直接的な障害と、薬による骨髄機能の抑制 (骨髄抑制) に伴う局所感染によって生じる二次性障害の2つがある。抗がん剤の投与後、およそ5日目から10日目ころに口内炎が発生しやすくなるが、TC治療の場合、同時期に骨髄の機能が低下するので、口内炎によって傷ができたところに細菌などが侵入して感染しやすくなる。口腔内の清潔を保つよう指導する。

相澤病院院内製剤のレバミピド含嗽水を使用している患者さんもいるかもしれません。

(病院で口内炎用のうがい薬をだしてもらっているという場合は「茶色の瓶に入ったものですか？それなら使うたび、良く振ってご使用ください」とお伝え下さい)

- ・ **最も注意すべきは、骨髄抑制**である。特に好中球減少は、他の抗がん剤と比べて比較的早期におこる。ドセタキセル点滴後 1 週間経過したあたりが、いちばん抵抗力が落ちている時期。この時期に **37.5℃以上の発熱が 1 時間以上続く上、下痢口内炎を併発する場合は重篤。直ちに病院を受診する必要がある。**日本人の TC 療法観察研究で 68.8%の高頻度に発現したとの報告がある。

・ 爪の変化

本治療に用いるドセタキセルは、爪障害を起こしやすい薬剤である。**横向きの陥凹**がみられることが多い印象。爪は、指先を保護する、物をつかみややすくする、指を支え微妙な感覚をコントロールする、足の爪には体重を支えるなど大事な役割を担っている。

治療による爪の変化として患者さんから爪に横線が入る、爪が変色する、爪が弱くなった など訴えがあるので、爪の変化について質問してみるとよい。

アドバイスとしては、爪用のマッサージオイル（ネイルキューティクルオイルなど）を利用して爪の成長を促したり、日常の爪保としてマニキュアを用いて爪の凹凸、ひび割れなどに対応する。

ただし、爪囲炎の場合はマニキュア塗布が爪囲炎悪化に繋がることもあるので、爪の周りの様子も観察する。爪がはがれる、浸出液が出る、爪周囲が赤くはれて痛みがあるなどの場合は病院に相談するよう伝える。

・ 皮膚障害

点滴して 1 週間目ぐらいに皮疹がでることがある。

全身に痒みを伴うような発疹が起きた場合は、迷わず病院に相談するよう伝える。

色素沈着で肌が黒っぽくなる方がいます。

直射日光によりそれが更に強くでることが予測されるので、日焼け防止対策をお伝えする。

シミが増えた、肌があれるといった相談があるかもしれません。

ドセタキセルによる手足症候群（末梢神経障害）予防のため当院では凍らせたペットボトルをお持ちいただいて点滴中使用していただくことをお勧めしている。

（女性は比較的にこのアドバイスを受け入れ点滴中 冷やしている方が多い）

保湿を促していただくことも有用。

当院では手足症候群、末梢神経障害、爪変化への対応としてペットボトルに水を入れて、凍らせていただき、点滴中手足を冷やしてもらっている。



- ・ 下痢が起きる可能性がある。下痢は脱水を招くおそれがある。下痢により水分だけでなく電解質も喪失するので、**電解質含有の水分を摂る** よう伝える。

下痢をした場合の具体的なアドバイスとしては

下痢により体に必要な電解質もでていってしまい、例えば低カリウムを起こすことがある。

電解質を含んだ飲料水を排泄のたびコップ 1 杯以上とり、水だけお茶だけといった水分の摂り方はしない。

カリウムの多い食品としてはバナナなどがある。食事の一回量を減らし、回数を増やす。

食事の 1 回量が多いほど、胃結腸反射が起き下痢を誘発しやすいので、回数を多く取る方法に切り替える。

下痢時、避けたほうがよい食品としては、カフェイン、アルコール、炭酸飲料、ナッツ類（ナッツは非常に油分を多く含んでいる。多すぎる油分が腸に入ると、水分と油分が分離してしまい下痢を誘発する）、全粒粉食品、ふすま製品、揚げ物を含む高脂肪食品などは、消化器系に刺激を与える可能性があるため、摂取を控える。

食事の温度も重要。非常に熱かったり、また冷たかったりする食べ物は、下痢の要因となる。

- ・ 頻度は高くないが、関節痛・筋肉痛を訴える場合がある。

ドセタキセル点滴投与後、2～3日後に出現し数日持続する。患者さんは次の受診の頃は症状を忘れてたりする。

必要に応じて NSAID s 処方なども可能なので、点滴数日間の痛みがないか確認するようにし

痛みがあった場合は 次回受診時に どんな痛みがどの程度あったのか医師に伝えるよう指導する。

備考：このレジメンで使用するシクロフォスファミドは尿中に 3 日程度、糞便中に 5 日程度残存します。患者さんからトイレ使用に関して **もし何か聞かれ場合には**「御家族のためにも使用後のトイレは、トイレのふたをして水を流してください。このとき水を 2 回流したほうがよいでしょう。」とお伝えいただければと思います。